

安全データシート

作成日:2022年8月23日

1. 製品及び会社情報

化学品の名称
推奨用途
会社名
住所
電話番号

しゅう酸鉄(Ⅲ)アンモニウム三水和物
試験研究用
米山薬品工業株式会社
大阪市中央区道修町2丁目3番11号
(06)6231-3555(大阪・本社)
(03)3246-2311(東京) (0268)22-5910(上田)
(052)504-2221(名古屋) (082)537-0290(広島)
CB1801

整理番号

2. 危険有害性の要約

GHS分類
健康に対する有害性

皮膚腐食性及び皮膚刺激性:区分2
眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性:区分2A
特定標的臓器毒性(単回ばく露):区分3(気道刺激性)

ラベル要素
絵表示又はシンボル



注意喚起語
危険有害性情報

警告
皮膚刺激
強い眼刺激
呼吸器への刺激のおそれ

注意書き

【安全対策】
取扱い後はよく手を洗うこと。
屋外又は換気の良い区域でのみ使用すること。
適切な保護手袋を着用すること。
適切な保護眼鏡、保護面を着用すること。
粉じん、ヒューム、蒸気、スプレーの吸入を避けること。
【応急措置】
皮膚に付着した場合、多量の水と石鹼で洗うこと。
汚染された衣類を再使用する前に洗濯すること。
吸入した場合、気分が悪い時は医師に連絡すること。
吸入した場合、被災者を新鮮な空気のある場所に移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
眼に入った場合、水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
皮膚に付着した場合、汚染された衣類を脱ぐこと。
皮膚に付着した場合、皮膚刺激が生じた場合、医師の診断、手当てを求めること。
眼に入った場合、眼の刺激が持続する場合は医師の診断、手当てを受けること。
【保管】
容器を密閉して涼しく換気の良い場所で施錠して保管すること。
【廃棄】
内容物や容器を、都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。

3. 組成、成分情報

化学物質・混合物の区別
化学名又は一般名
化学式
化学物質を特定できる一般的な番号
含有量
官報公示整理番号(化審法/安衛法)
その他

化学物質
しゅう酸鉄(Ⅲ)アンモニウム三水和物
 $(\text{NH}_4)_3\text{Fe}(\text{C}_2\text{O}_4)_3 \cdot 3\text{H}_2\text{O}$
CAS RN:14221-47-7
95%以上
(1)-1198 / 公表
HSコード:2917.11

4. 応急措置

吸入した場合

空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。

皮膚に付着した場合

気分が悪い時は、医師の手当て、診断を受けること。
直ちに、汚染された衣類をすべて脱ぐこと、取り除くこと。
多量の水と石鹼で洗うこと。
皮膚刺激が生じた場合、医師の診断、手当てを受けること。

眼に入った場合

汚染された衣類を再使用する前に洗濯すること。
水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易にはずせる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
直ちに医師の診断を受けること。

飲み込んだ場合

口をすすぐこと。吐かせないこと。
直ちに医師の診断を受けること。

5. 火災時の措置

適切な消火剤
使ってはならない消火剤

水噴霧、泡消火剤、粉末消火剤、炭酸ガス、乾燥砂類
棒状注水

<p>特有の危険有害性</p>	<p>火災によって刺激性、腐食性及び/又は毒性のガスを発生するおそれがある。 不燃性であり、それ自身は燃えないが、加熱されると分解して、腐食性及び/又は毒性の煙霧を発生するおそれがある。 危険でなければ火災区域から容器を移動する。 消火後も、大量の水を用いて十分に容器を冷却する。 水が十分に供給されないときは蒸気濃度を低下させるだけにする。 消火作業の際は、適切な空気呼吸器、化学用保護衣を着用する。</p>
<p>特有の消火方法</p>	<p>火災によって刺激性、腐食性及び/又は毒性のガスを発生するおそれがある。 不燃性であり、それ自身は燃えないが、加熱されると分解して、腐食性及び/又は毒性の煙霧を発生するおそれがある。 危険でなければ火災区域から容器を移動する。 消火後も、大量の水を用いて十分に容器を冷却する。 水が十分に供給されないときは蒸気濃度を低下させるだけにする。 消火作業の際は、適切な空気呼吸器、化学用保護衣を着用する。</p>
<p>消火を行う者の保護</p>	<p>火災によって刺激性、腐食性及び/又は毒性のガスを発生するおそれがある。 不燃性であり、それ自身は燃えないが、加熱されると分解して、腐食性及び/又は毒性の煙霧を発生するおそれがある。 危険でなければ火災区域から容器を移動する。 消火後も、大量の水を用いて十分に容器を冷却する。 水が十分に供給されないときは蒸気濃度を低下させるだけにする。 消火作業の際は、適切な空気呼吸器、化学用保護衣を着用する。</p>
<p>6. 漏出時の措置 人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置</p>	<p>漏洩物に触れたり、その中を歩いたりしない。 直ちに、全ての方向に適切な距離を漏洩区域として隔離する。 関係者以外の立ち入りを禁止する。 作業者は適切な保護具を着用し、眼、皮膚への接触や吸入を避ける。 立ち入る前に、密閉された場所を換気する。 環境中に放出してはならない。 粉塵の立たない方法で出来るだけ掃き集め、密閉できる空容器等に回収する。 水で湿らせ、空気中のダストを減らし分散を防ぐ。 プラスチックシートで覆いをし、散乱を防ぐ。</p>
<p>環境に対する注意事項 封じ込め及び浄化の方法及び機材</p>	<p>漏洩物に触れたり、その中を歩いたりしない。 直ちに、全ての方向に適切な距離を漏洩区域として隔離する。 関係者以外の立ち入りを禁止する。 作業者は適切な保護具を着用し、眼、皮膚への接触や吸入を避ける。 立ち入る前に、密閉された場所を換気する。 環境中に放出してはならない。 粉塵の立たない方法で出来るだけ掃き集め、密閉できる空容器等に回収する。 水で湿らせ、空気中のダストを減らし分散を防ぐ。 プラスチックシートで覆いをし、散乱を防ぐ。</p>
<p>7. 取扱い及び保管上の注意 取扱い 技術的対策</p>	<p>吸い込んだり、目、皮膚および衣類に触れないように、適切な保護具を着用する。 取扱いについては、局所排気装置または全体換気装置を使用する。 眼、皮膚との接触を避けること。 飲み込みを避けること。 皮膚との接触を避けること。 眼に入れないこと。 屋外又は換気の良い区域でのみ使用すること。 粉じん、ヒューム、蒸気、スプレーの吸入を避けること。 熱 取扱い後はよく手を洗うこと。</p>
<p>安全取扱注意事項</p>	<p>吸い込んだり、目、皮膚および衣類に触れないように、適切な保護具を着用する。 取扱いについては、局所排気装置または全体換気装置を使用する。 眼、皮膚との接触を避けること。 飲み込みを避けること。 皮膚との接触を避けること。 眼に入れないこと。 屋外又は換気の良い区域でのみ使用すること。 粉じん、ヒューム、蒸気、スプレーの吸入を避けること。 熱 取扱い後はよく手を洗うこと。</p>
<p>接触回避 衛生対策</p>	<p>吸い込んだり、目、皮膚および衣類に触れないように、適切な保護具を着用する。 取扱いについては、局所排気装置または全体換気装置を使用する。 眼、皮膚との接触を避けること。 飲み込みを避けること。 皮膚との接触を避けること。 眼に入れないこと。 屋外又は換気の良い区域でのみ使用すること。 粉じん、ヒューム、蒸気、スプレーの吸入を避けること。 熱 取扱い後はよく手を洗うこと。</p>
<p>保管 安全な保管条件</p>	<p>施錠して保管すること。 容器を密閉して保管すること。 毒劇法で規定されている容器を使用する。</p>
<p>容器包装材料</p>	<p>施錠して保管すること。 容器を密閉して保管すること。 毒劇法で規定されている容器を使用する。</p>
<p>8. 暴露防止及び保護措置 許容濃度 管理濃度 日本産業衛生学会 ACGIH 設備対策</p>	<p>未設定 未設定 未設定 この物質を貯蔵ないし取扱う作業場には洗眼器と安全シャワーを設置すること。 作業場には全体換気装置、局所排気装置を設置すること。</p>
<p>保護具 呼吸器の保護具 手の保護具 眼の保護具 皮膚及び身体の保護具</p>	<p>適切な呼吸器保護具を着用すること。 適切な保護手袋を着用すること。 適切な眼の保護具を着用すること。 適切な保護衣を着用すること。</p>
<p>9. 物理的及び化学的性質 物理状態 色 臭い 融点/凝固点 沸点又は初留点及び沸点範囲 燃焼性 爆発下限界及び爆発上限界/可燃限界 引火点 自然発火温度 分解温度 pH 動粘性率(粘度) 溶解度 n-オクタノール/水分配係数 蒸気圧 密度及び/又は相対密度 相対ガス密度 蒸発速度(酢酸ブチル=1)</p>	<p>結晶 黄緑色 該当情報なし 該当情報なし 該当情報なし 不燃性 該当情報なし 該当情報なし 該当情報なし 160-170°C 該当情報なし 該当情報なし 水によくとける。 該当情報なし 該当情報なし 1.78 (17.5°C) 該当情報なし 該当情報なし</p>
<p>10. 安定性及び反応性 反応性、化学的安定性</p>	<p>通常の使用条件下では安定 100°Cで結晶水を失う。</p>

<p>危険有害反応可能性 避けるべき条件 混触危険物質 危険有害な分解生成物</p>	<p>有機化合物の存在において、または水溶液の状態において光化学変化を受け、Fe(Ⅲ)→Fe(Ⅱ)の変化を起こす。 該当情報なし 日光, 熱 該当情報なし 一酸化炭素, 窒素酸化物, 酸化鉄</p>
<p>11. 有害性情報 急性毒性</p> <p>皮膚腐食性及び皮膚刺激性</p> <p>眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性</p> <p>呼吸器感作性又は皮膚感作性</p> <p>生殖細胞変異原性 発がん性 生殖毒性 特定標的臓器毒性(単回暴露)</p> <p>特定標的臓器毒性(反復暴露) 誤えん有害性</p>	<p>経口: 該当情報なし 経皮: 該当情報なし 吸入: 該当情報なし (粉塵) ウサギの皮膚標準ドレイズ試験(HSDB, 2005; RTECS, 1997)で、皮膚の反応がModerate(スコア3.06)であったことから、区分2とした。 ウサギの眼標準ドレイズ試験(HSDB, 2005; RTECS, 1997)で、強い刺激性(very irritatingあるいはmoderate)を示したことから区分2Aとした。 呼吸器: 該当情報なし 皮膚: 該当情報なし 該当情報なし 該当情報なし 該当情報なし ACGIH-TLV(2006)では水溶性鉄塩は気道刺激性を示すとされており、HSFS(2001)およびSITTIG(4th, 2002)でも本物質には気道刺激性があるとされていることから、区分3(気道刺激性)とした。 該当情報なし 該当情報なし</p>
<p>12. 環境影響情報 生態毒性</p> <p>残留性・分解性 生体蓄積性 土壌中の移動性 オゾン層への有害性</p>	<p>短期: 該当情報なし (急性) 長期: 該当情報なし (慢性) 該当情報なし 該当情報なし 該当情報なし 当該物質はモントリオール議定書の附属書に列記されていない。</p>
<p>13. 廃棄上の注意 残 化学品、汚染容器及び包装の安全でかつ環境上望ましい廃棄、又はリサイクルに関する情報</p> <p>汚染容器及び包装</p>	<p>廃棄においては、関連法規並びに地方自治体の基準に従うこと。 都道府県知事などの許可を受けた産業廃棄物処理業者、もしくは地方公共団体がその処理を行っている場合にはそこに委託して処理する。 廃棄物の処理を依頼する場合、処理業者等に危険性、有害性を十分告知の上処理を委託する。 容器は清浄にしてリサイクルするか、関連法規並びに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。 空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去すること。</p>
<p>14. 輸送上の注意 国連番号 品名(国連輸送名) 国連分類 副次危険性 容器等級 輸送又は輸送手段に関する特別の安全対策</p> <p>国内規制がある場合の規制情報 陸上輸送 海上輸送 航空輸送 応急措置指針番号</p>	<p>— — — — — — 食品や飼料と一緒に輸送してはならない。 輸送に際しては、直射日光を避け、容器の破損、腐食、漏れのないように積み込み、荷崩れの防止を確実にを行う。 重量物を上積みしない。 消防法の規定に従う。 船舶安全法の規定に従う。 航空法の規定に従う。 —</p>
<p>15. 適用法令 化学物質管理促進法(PRTR法) 毒物及び劇物取締法 消防法 労働安全衛生法</p> <p>水質汚濁防止法</p>	<p>指定化学物質に該当しない。 劇物 危険物に該当しない。 名称等を表示し、又は通知すべき危険物及び有害物[シュウ酸鉄アンモニウム][施行令別表9](2026年(令和8年4月1日)以降) 危険性又は有害性を調査すべき物[シュウ酸鉄アンモニウム](2026年(令和8年4月1日)以降) 名称等を表示し、又は通知すべき危険物及び有害物(第57条及び施行令18条、第57条の2及び施行令18条の2)[鉄水溶性塩] 危険性又は有害性を調査すべき物[鉄水溶性塩] 有害物質</p>
<p>16. その他の情報 参考文献</p>	<p>NITE-CHRIP(製品評価技術基盤機構HP) 職場のあんぜんサイト(厚労省HP)</p>

NITE-GHS分類結果(製品評価技術基盤機構HP)

Merck Index 14th.

化学大辞典(共立出版)

記載内容のうち、含有量、物理／化学的性質等の数値は保証値ではありません。危険・有害性の評価は、現時点で入手できる資料・情報 データ等に基づいて作成しておりますが、すべての資料を網羅した訳ではありませんので取り扱いには十分注意して下さい。